

見守りサービス導入で 高まる安心感

小さな拠点づくりモデル事業（衣川地域）
『高齢者見守りサービス事業』
実証結果レポート

令和7年8月18日
奥州市 政策企画部未来羅針盤課 羅針盤プロジェクト室

内容

- ・ 小さな拠点づくりモデル事業とは
- ・ 見守りサービス事業の概要
- ・ 事業の成果
- ・ 事業の課題
- ・ 今後の展開

小さな拠点づくりモデル事業とは

はじめに、「小さな拠点づくり」とは…

人口減少や高齢化が進む中でも、住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、地域住民が主体となって事業者や市と連携・役割分担しながら、生活サービスの維持やしごと・収入を確保する取組のこと

奥州市では、過疎地域をモデル地区に、小さな拠点づくりとなる先駆的な取組を『小さな拠点づくりモデル事業』として実施し、事業効果が大きかったものを他地域に展開することを目指しています。

モデル地区「衣川地域」

衣川地域では、地域住民が主体となって地域の将来像「衣川地域の将来ビジョン」を作成しました。

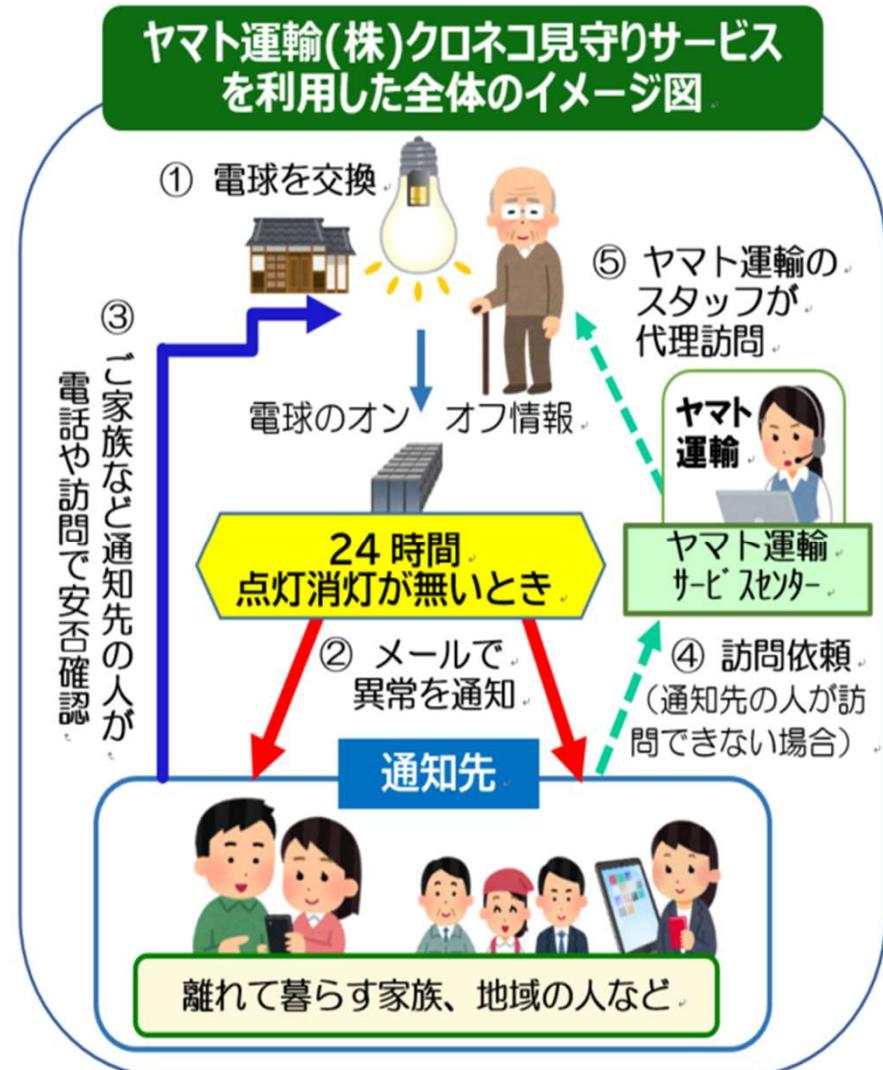
市は衣川地域を令和4年度にモデル地区に指定し、各種モデル事業に取り組んできました。

『高齢者見守りサービス事業』は、小さな拠点づくりモデル事業の1つとして衣川地域で取り組んだ事業です。

見守りサービス事業の概要（1）

目的	家族だけでなく地域での見守り体制構築を目指して、一人暮らしの高齢者の見守りに、通信機能内蔵の見守り電球を活用した見守りサービス事業の実証を市が行うことにより、効果（※）を検証する。 (※期待できる効果…高齢者の異常・異変や孤独死の早期発見)
方法	見守る対象（独り暮らし高齢者）の自宅トイレ等の電球を見守り電球に交換して、電球のオン・オフの動向により異常・異変を早期に発見する。
対象	見守られる方：現在は自立している一人暮らしの高齢者 見守る方：見守られる方の家族・親類、地域住民、民生委員 等
実施地域、 実施期間 及び利用 サービス	奥州市衣川地域の4地区 ・北股地区・南股地区 令和4年12月～令和5年12月 NTTレゾナント(株)「goo of thing 電球統合管理システム」 ・衣川地区・衣里地区 令和6年1月～令和7年2月 ヤマト運輸(株)「クロネコ見守りサービスハローライト訪問プラン」 (※ NTTレゾナント(株)が令和6年度から見守りサービス事業から撤退することから、利用サービスを 変更したもの)

見守りサービス事業の概要（2）



<サービス内容>

1. NTTレゾナント(株)「goo of thing 電球統合管理システム」

(令和4年12月～令和5年12月)

- 既設の電球を 見守り電球 に交換
- 見守る方が専用アプリをスマートフォンにダウンロード
- 24時間消灯している場合と、3時間継続点灯している場合にアプリにアラート通知
※アプリから電球の点灯履歴を確認可能
- ※消灯、点灯の時間設定は変更可能

2. ヤマト運輸(株)「クロネコ見守りサービスハローライト訪問プラン」

(令和6年1月～令和7年2月)

- 既設の電球を 見守り電球 に交換
- 電球が24時間計測し、動きがない場合は事前に設定した通知先（見守る方）にメールでお知らせ
- 通知先の人が安否確認を行う
- 高齢者と連絡が取れず、通知先の人が誰も訪問できない場合、ヤマト運輸サービスセンターに訪問依頼が可能（サービスに含む）
- 最寄りのヤマト運輸スタッフが高齢者宅を訪問し、必要に応じて地域の窓口へ連絡

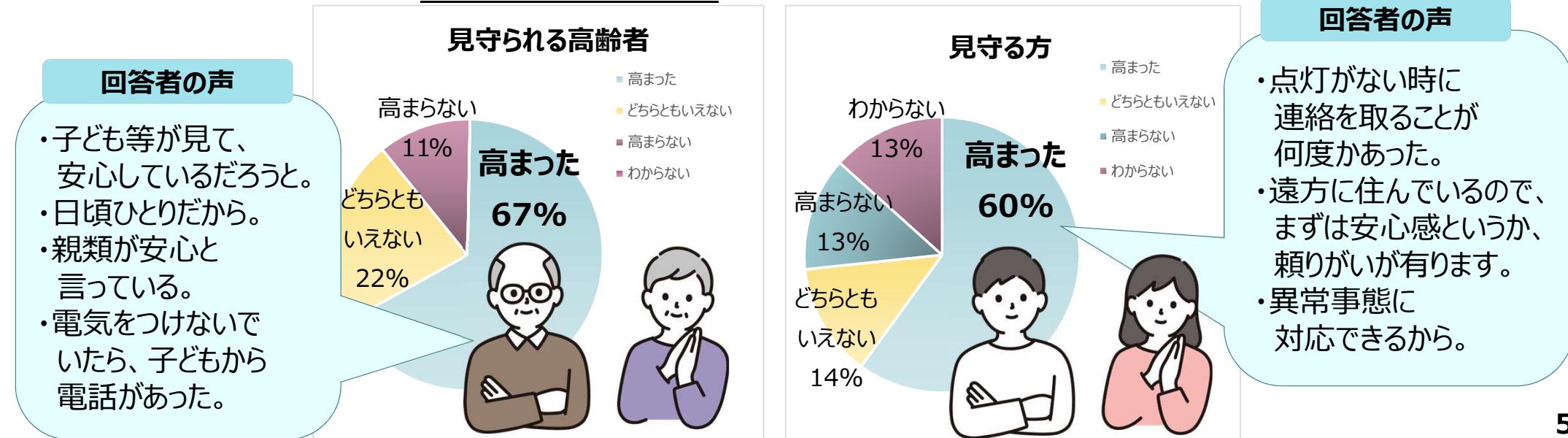
事業の成果（1）

見守られる方も見守る方も得られる安心感

- 見守り電球利用者にアンケート調査を実施

	見守られる高齢者	見守る方	アンケート依頼数	回答者数	回答率
北股・南股	23	23	46	21	46%
衣川・衣里	10	10	18	12	67%
合計	33	33	64	33	52%

- 見守り電球使用前より安心感が高まったか



事業の成果（2）

やってみてわかったこと

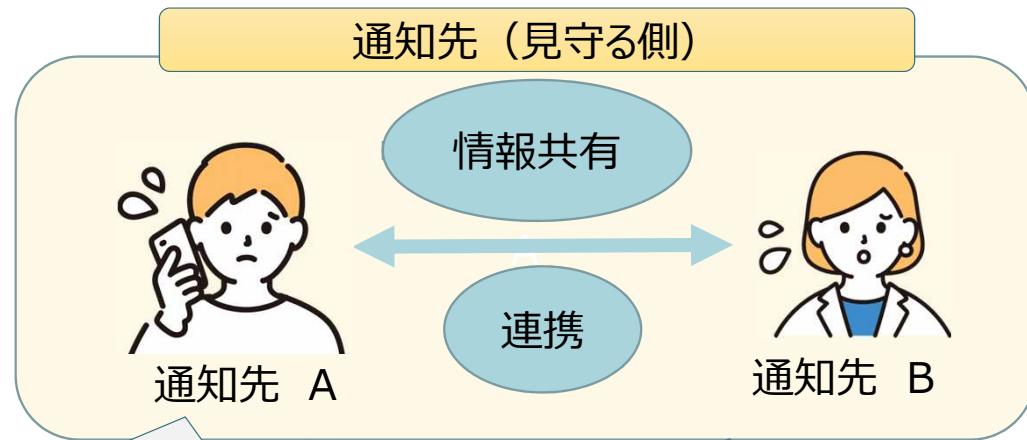
地域住民など家族以外の人間に異常検知時の通知先にならせてもらうことが難しい

何かあったときに駆け付けることができるか心配



- ・通知先になれる家族がいれば、家族が見守ることでよい。
- ・高齢者に家族がない場合に、家族以外の人で通知先になれる人を検討（様子を見に行けないとときは、ヤマト運輸に訪問依頼できる）

異常検知時の通知先になる人を複数にした場合、情報共有・連携をどうするか



- ・異常通知があったけど、誰が安否確認する？
- ・私は仕事中で行けない。Aさんは行ける？
- ・電話したら問題なく元気だったけど、Bさんに連絡しなくちゃ…

- ・通知先を複数にする場合は、家族・兄弟など普段から連絡を取り合える人たちにする。
- ・通知先になる人（見守る側）は一人でもよい。

<満足度が低いと回答した主な原因>

- 見守りサービスの仕組み自体の理解・周知不足
⇒サービス内容の説明・フォローアップの必要性
- 「見守り電球」の設置条件や性能への不満など
⇒高齢者それぞれの住宅環境・生活環境に合う、他の見守りサービスについての調査・検討
(例) ・他のデジタルツール ・市や社会福祉協議会などで実施している、デジタル以外の見守りサービス



〈その他〉

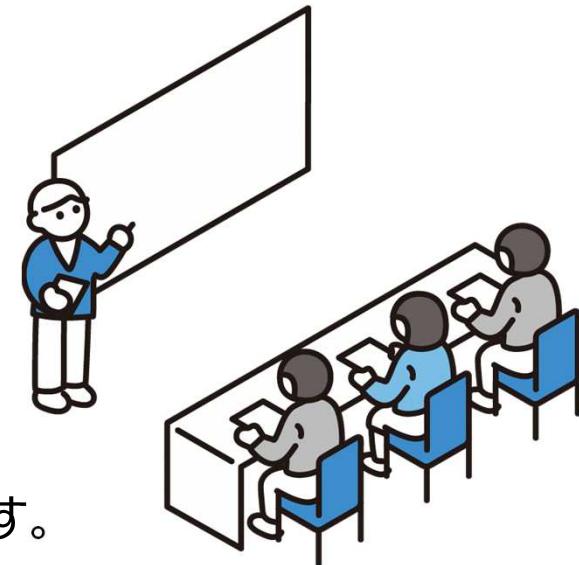
電波状況が悪かったり、日頃電気を付けない(ON/OFFしない)
場所に設置すると、異常通知が毎日発信、毎日安否確認の
電話がくる ⇒煩わしさで解約申し出があったケースも。



事業の課題

市は、一律的に本事業を市全体に展開するのではなく、
地域ごとに適した手法で、地域の特色を活かした、
地域主体の見守りを支援していきます。

- ・ 安心感が高まる効果を、他地域に周知していきます。
- ・ 導入を検討する地域へ、希望に応じて説明を行います。
- ・ 高齢者それぞれや地域の特性を踏まえた見守りを検討します。
- ・ 電球以外の効果的な機器やサービスを、今後も調査・検討していきます。



今後の展開：地域で取り組む見守りへ

お気軽に
お問い合わせください。

【問い合わせ先】

奥州市政策企画部未来羅針盤課

羅針盤プロジェクト室

電話：（代表）24-2111（内線1426 または 1427）

メール：project@city.oshu.iwate.jp